



平成28年度 決算概況

平成29年6月6日
株式会社 トーハン

目次



単体決算

1. 単体 決算概況
2. 貸借対照表と損益計算書
3. 部門別の売上概況
4. 施策概況
5. 平成29年度方針

連結決算

6. 連結 決算概況

1. 単体 決算概況



◇単体決算－減収増益決算

- 売上高は461,340百万円、前年比97.4%の減収となりました。
- 売上原価は前年より0.1ポイント改善しました。
MM商品を中心とした原価率の低い商品の占有拡大により0.06ポイント改善したことに加えて、決算における返品調整引当金の処理により0.04ポイントの改善がありました。
- この結果、売上総利益は50,140百万円で、売上高の伸長率に比べ0.9ポイント上回る前年比98.3%となりました。
- 販売費及び一般管理費は、全社的なコスト削減で経費の最小化に取り組んだ結果、前年比97.1%と売上総利益の伸長率に比べ1.2ポイント下回りました。
- 結果、営業利益は6,552百万円で前年比106.6%の増益となりました。
- 営業外収益と営業外費用を加減した結果、経常利益は4,222百万円で前年比108.3%となりました。
- 特別利益は遊休資産の売却による固定資産売却益等で293百万円を計上し、これに特別損失を反映した結果、税引前当期純利益は4,439百万円、前年比116.1%となりました。
- 法人税率の変更も影響し税金費用が前年よりも抑えられたことで、当期純利益は3,042百万円、前年比131.3%となり、減収増益決算となりました。
- OB/S面では、自己資本比率は32.6%と、前年より1.0ポイント上昇し、財務基盤は引き続き堅調に推移しています。

2. 単体 貸借対照表と損益計算書



貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日 現在

【第70期】

(単位:百万円)

資 産 の 部			負 債 及 び 純 資 産 の 部		
科 目	金 額	増減額	科 目	金 額	増減額
資産の部	311,985	-4,015	負債の部	210,042	-5,991
流動資産	215,196	-6,216	流動負債	199,467	-3,569
現金・預金	30,820	+10,958	支払手形	7,087	+240
受取手形	3,459	+111	買掛金	173,057	-3,325
売掛金	121,954	-7,697	短期借入金	1,600	±0
有価証券	18,859	-12,169	未払勘定	9,135	-180
商 品	20,318	+2,242	預り勘定	1,183	+31
短期金融資産	15,200	+200	諸引当金	7,150	-117
繰延税金資産	1,407	-74	その他の流動負債	252	-217
その他の流動資産	6,682	-23	固定負債	10,575	-2,422
貸倒引当金	-3,506	+236	長期借入金	3,400	±0
固定資産	96,789	+2,201	退職給付引当金	4,260	-2,144
有形固定資産	35,543	-1,515	その他の固定負債	2,914	-277
建物・構築物	13,400	-776	純資産の部	101,942	+1,976
機械装置	1,462	-236	株主資本	100,470	+2,104
土地	20,107	-134	資本金	4,500	±0
その他の有形固定資産	572	-368	資本剰余金	1,130	±0
無形固定資産	1,630	-423	利益剰余金	96,534	+2,629
投資その他の資産	59,615	+4,140	利益準備金	1,125	±0
投資有価証券	44,607	+3,399	その他利益剰余金	95,409	+2,629
長期繰延税金資産	1,992	-3	自己株式	-1,694	-524
その他の投資等	17,539	+1,194	評価・換算差額等	1,472	-127
貸倒引当金	-4,524	-450	その他有価証券評価差額金	1,472	-127
資産の部合計	311,985	-4,015	負債・純資産の部合計	311,985	-4,015

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

(単位:百万円、%)

科 目	金 額	前年比
売上高	461,340	97.4
売上原価	411,200	97.2
売上総利益	50,140	98.3
販売費及び一般管理費	43,587	97.1
営業利益	6,552	106.6
営業外収益	4,232	92.9
受取利息	454	72.2
その他の営業外収益	3,777	96.3
営業外費用	6,562	96.5
支払利息	29	67.4
売上割引	5,832	96.6
その他の営業外費用	699	97.2
経常利益	4,222	108.3
特別利益	293	2,615.2
特別損失	76	89.9
税引前当期純利益	4,439	116.1
法人税等	1,396	92.6
当期純利益	3,042	131.3

売上高内訳

(単位:百万円、%)

種 別	金 額	増減額	前年比	返品率	前年差
書籍	180,957	-3,586	98.0	41.4	+0.2
雑誌	162,993	-7,297	95.7	47.0	+0.6
コミック	52,056	-4,730	91.6	30.1	+1.3
MM商品	65,332	+3,221	105.1	13.6	+1.8
合計	461,340	-12,392	97.4	39.8	+0.4

株式会社トーハン

3. 単体 部門別の売上概況



書籍は前年比98.0%と前年に近い水準を維持し、MM商品は前年比105.1%と健闘したものの、雑誌が前年比95.7%となり、コミックは前年比91.6%と前年を大きく割り込みました。

○書籍は、販売占有の高いジャンルである文庫の落ち込み(前年比92.7%)が大きいものの、児童書(前年比103.3%)、学参・辞典(前年比102.7%)など、好調なジャンルで売上をカバーし、前年比98.0%と比較的堅調に推移しました。

○雑誌は、仕入配本改革における「事前シミュレーション」取り組み銘柄においては、前年比104.3%と成果を上げましたが、創刊誌92点に対し、廃刊・休刊誌が365点と多かった状況に加え、電子雑誌読み放題サービスの影響も大きく、前年を4.3ポイント下回り前年比95.7%となりました。

○コミックは、電子コミックの市場拡大による影響や「暗殺教室」「BLEACH」をはじめとする大物商品の相次ぐ連載終了等によって売上が落ち込みました。また、前年度に売行良好書「キングダム」の増売があったことなどから、前年を8.4ポイント下回り前年比91.6%となりました。

○MM商品は、「シン・ゴジラ」や「君の名は。」など映画関連商材が、前年比105.1%の売上を牽引しました。なお書店取引部門での前年比は112.8%となりました。MVPブランドでは、出版社様やメーカー様の協力による当社オリジナル商材が話題となりました。中でも「ジ・アート・オブ・シン・ゴジラ」は高額商品にもかかわらず、事前予約が2万部を超えるなど大きな反響を呼ぶことができました。

○市場開発におきましては新規店の開発は年間売上で111億円ありましたが、大型書店法人との取引終了の影響があり、年度予算を下回りました。

4. 単体 施策概況



◇営業重点3施策「TONETS V・スコアVを活用した売場改善」「店頭客注増加」「店頭活性化プロジェクト」

- 理想とする業務水準を数値化した「スコア」について、スコア値60以上の店舗様のPOS前年比は97.4%(平均は95.2で+2.2ポイント)と既存店全体実績より高くなっています。
この実績を踏まえスコア値60以上店の送品占有を60%以上に高める取り組みを実施しました。その結果、スコア60以上の占有が年度当初20.8%から63.5%まで高まり、新たに年度内にスコア60に達した店舗様のPOS伸長率は2.6ポイント上昇し、スコア管理による店頭実績の向上に大きく貢献しました。
- 店頭客注を増加させる取り組みを1,542店舗で実施し、客注占有は4.1%まで拡大しました。なお、既存店全体に対して、+1.9%の実績となりました。
- 店頭活性化プロジェクトでは、8年ぶりの新刊「ハリーポッターと呪いの子」の連動フェア&キャンペーンに1,309店舗が参加しました。また、昨年好評だった旅企画は第二弾「戦国武将ゆかりの温泉宿キャンペーン」を実施、プレゼント応募件数が70万件を超えるなど、年間を通じて店頭活性化に寄与する企画を展開しました。

◇雑誌対策

- 昨年度より取り組んでいる雑誌仕入配本改革では、従来型の実績参照配本から需要予測に基づく事前配本シミュレーションを行い、対象誌を70誌に拡大し、仕入部数の適正化と増売を図りました。
- 約2,300誌を対象に読者予約分を別口座にわけて満数配本するシステムを導入しました。約1,000店舗で展開し、予約登録の前年比は227.3%と大きく伸びています。

◇複合事業の拡大

- 複合売場開発では「add文具」をはじめとする「&パートナーズ」の年度における新規開発軒数目標を231軒で達成しました。
これにより導入店舗は500店舗を超え、文具雑貨市場において一定の規模のマーケットを獲得することが出来ました。
- 2009年度から取り組んでいるオリジナルPB商品開発の「MVPブランド」では通算625タイトルの商品開発を行い、今までにない新しい商品の提供、他店舗にない差別化を実現し、店頭の賑わいを創出、集客に貢献しています。

◇PI(パブリッシャーズ・インキュベーション)推進プロジェクト

- 本年度発足したPI推進プロジェクトは約60社から相談をうけました。取引口座開設14社、32点の新刊を発行し、38百万円の売上を創出いたしました。

5. 単体 平成29年度方針



◇書店の売上最大化

- 共通ポイント対応・・・今秋リリース予定の新型POSはポンタ・楽天スーパーポイント・dポイント(NTTドコモ)に対応しています。弊社とポイントベンダー3社様が提携することで、店舗における増売と集客力アップを図ります。
- TONETS V スコアV施策・・・スコアの精度を上げ、必要な店頭在庫を維持し、販売チャンスを逃さぬよう機能を高めます。
- 店頭活性化プロジェクト・・・「かいけつゾロリの夏休みは本屋さんに行こう！」等店頭を盛り上げるコラボ企画を実施します。

◇雑誌の仕入配本改革

- 需要予測に基づく事前配本シミュレーションでは、対象誌を100誌に拡大し、出版社様からの次号の情報をより早く入手し、精度の高い配本を追求します。
- 読者予約分を別口座にわけて満数配本するシステムについて、定期雑誌のほぼ全銘柄の2,500誌まで拡大する予定です。

◇コミック施策

- LINEを経由した「ネットの試し読みから店頭コミック売場へ」施策については展開店舗を600店に拡大し、リアルとネットの融合と既刊本の増売を行います。

◇複合事業の拡大

- 複合売場開発・・・通算で全国500店舗まで拡大した新しいタイプの複合売場「&パートナーズ」について、更なる店舗数の増加と、設置した売場の質的な向上を図ります。
- PB商品開発・・・4月に「ニュープロダクト開発部」を設置し、「製造卸」機能の強化を図り、オリジナル商品の開発力を高め、「出版総合商社」として魅力ある商品を提案します。

◇輸送問題

- 業量が減少する中で人件費等のコストは上昇し、出版輸送の維持は喫緊の課題となっております。当社は平成28年11月に輸送対策室を設置し、輸送問題への取り組みを強化しております。他業界との協業化など出版物流の抜本的な改革に向けて、出版社様、書店様、輸送会社様等のご理解とご協力を得ながら取り組んでまいります。

補足資料



出版市場 ※5年前との比較

	週刊誌	月刊誌	書籍	合計
2011年	2,115	7,729	8,198	18,042
2016年	1,331	6,009	7,370	14,709
差	-784	-1,720	-828	-3,333
2011年対比	62.9%	77.7%	89.9%	81.5%

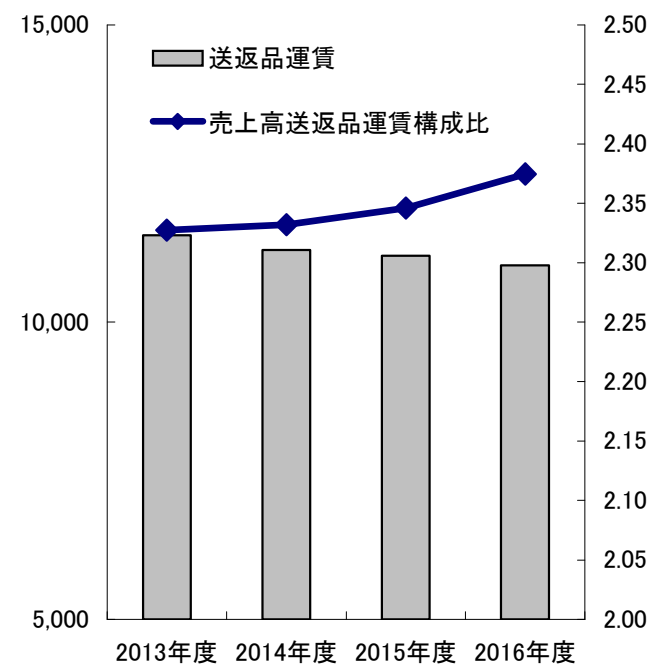
	書店数	CVS	合計
	15,061	44,403	59,464
	13,041	54,501	67,542
	-2,020	+10,098	+8,078
	86.6%	122.7%	113.6%

出版科学研究所統計及び日本フランチャイズチェーン協会調査より

運賃の推移

(単位: 百万円、%)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
商品売上高	492,557	480,919	473,733	461,340
送返品運賃	11,463	11,215	11,114	10,955
売上高送返品運賃構成比	2.327	2.332	2.346	2.375



6. **連結** 決算概況



◇連結決算（連結子法人15社）－減収増益決算

○売上高は475,907百万円、前年比97.4%の減収となりました。

○売上原価は、前年より0.32ポイント改善しました。

単体での原価率改善に加え、連結範囲の変更による影響で0.24ポイント改善がありました。

○この結果、売上総利益は61,689百万円で、売上高の伸長率に比べ2.5ポイント上回る前年比99.9%となりました。

○販売費及び一般管理費は、グループ会社全体でコストを削減し、経費の最小化に取り組んだ結果、前年比99.2%と売上総利益の伸長率に比べ0.7ポイント下回りました。

○この結果、営業利益は6,304百万円で前年比106.6%と増益になりました。

○営業外収益と営業外費用を加減した結果、経常利益は4,223百万円で前年比118.2%となりました。

○特別利益と特別損失を加減し、税金等調整前当期純利益は4,291百万円、前年比130.0%となりました。
親会社株主に帰属する当期純利益は2,836百万円、前年比175.5%で単体決算同様、減収増益の決算となりました。